

# 外国ルーツの中高生に ネットの危険など警鐘

## 多文化ルーム KIBOU 生活安全講話



外国にルーツを持つ中高生や若者を対象とした「多言語による生活安全講話」が26日、「アクティにしお」で開催された。写真：16人が薬物やSNS、闇バイトといった犯罪に巻き込まれないための知識を学んだ。楽しい夏休みを過ごしてもらおうと、多文化ルームKIBOUが主催し、西尾警察署が共催した。

若者が直面しやすいインターネット上での危険については、彼氏に下着の写真を送るよう求められた際の対処法で、講師

でスクールサポーターの切江泰仁さんは、「たとえ親密な関係であつても、そのような写真を送ることは危険だ」と強く忠告した。

切江さんは「一度インターネット上に流出した写真は、たとえ削除しても拡散し続ける可能性があり、将来の進学、就職、結婚といった重要な節目で『リベンジポルノ』として悪用されるケースがある」と警告。また、写真を送る行為は、撮る側も送る側も犯罪になり得ると指摘した上で、「西尾警察署には毎年、裸の写真を送って公開されてしまったという相談が寄せられている」と注意を呼び掛けた。

危険な要求を上手に断るための具体的な方法として、切江さんは、「私

のことは大丈夫です」と問いかけることで、相手に自分の気持ちを伝え、要求を断る方法を提案。また、「恋」と「愛」の違いに触れ、「恋」は夢中になるあまり周りが見えなくなり犯罪につながる可能性があるが、「愛」は相手を大切に思う気持ちから、危険な要求はしないと説明した。